

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成31年4月23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 文学研究科

職 名 助教

氏 名 阪口 英毅

助 成 の 種 類	平成30年度 ・ 研究活動推進助成			
申請時の科研費 研究 課 題 名	古墳群の総合的・多角的分析による政権構造の研究—首長墓系譜論の再構築—			
上記以外で助成金を 充 当 した 研 究 内 容	な し			
助成金充当に関 わる共同研究者	大阪大学・名誉教授・都出 比呂志, 京都大学・准教授・下垣 仁志, 向日市埋蔵文化財センター・事務局長・梅本 康広, 奈良文化財研究所・主任研究員・廣瀬 寛, 奈良県立橿原考古学研究所・主任研究員・宇野 隆志, 大手前大学・教授・森下 章司, 大手前大学史学研究所・研究員・岡本 篤志			
発表学会文献等	『妙見山古墳1967年調査報告—「畿内に於ける前期古墳成立基盤の研究」の再検討—』			
成 果 の 概 要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)			
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,000,000 円		
	使用した助成金額	1,000,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳	費 目	金 額	
		消耗品費	65,649円	
		旅費	128,620円	
		人件費・謝金	86,400円	
		印刷・製本費(使用見込)	712,800円	
	消耗品費(使用見込)	6,531円		
当財団の助成に つ い て	年度を繰り越すことについての「やむを得ない理由」について 「成果の概要」に記載しましたように、遺物整理事業にはさまざまな工程があり、人手と時間を多大に必要とすることから、年度を繰り越すことになってしまいました。また、研究成果報告書の印刷・製本費に助成金の7割以上を使用するという、イレギュラーなあり方の本研究にご高配をいただき、きわめて柔軟に対応いただいたことに、あらためて深く感謝申し上げます。基礎資料整備の重要性を訴えながら4年連続で科学研究費への申請が採択されず、全体計画を切り分けてでも報告書刊行を実現したいとの切実な思いで貴財団の助成に申請した結果、幸いにも採択いただくことができ、今後へ向けて希望をもつことができました。			

成果の概要

文学研究科考古学専修

阪口 英毅

研究内容： 報告者が発掘調査資料整理作業の対象としている京都府向日市所在の元稲荷古墳・寺戸大塚古墳・妙見山古墳は、相互に近接して所在する古墳時代前期の前方後方墳・前方後円墳群として戦前から著名であった。さらに、本学文学部考古学研究室の助手であった近藤喬一氏（山口大学名誉教授）と都出比呂志氏（大阪大学名誉教授）が1968～1970年に発掘調査を実施し、その成果をふまえて「首長墓系譜」との概念を提起することで、古墳群の研究から古墳時代政治史の分析ひいては国家形成過程の解明へとアプローチしていく道筋を切り開いたことにより、古墳時代研究史上とりわけ重要な位置を占めることとなった。

しかしながら、遺憾にもその正式な発掘調査報告書は未刊行のままとなってきた。本研究では、1年という助成期間を考慮して、3基の中でもっとも調査面積と遺物出土量の少ない妙見山古墳を取り上げ、その研究成果報告書を刊行することにより、過去の調査経緯・成果を広く公開し、学界や社会で共有することを目指した。

研究成果： 発掘調査日誌、遺構写真、遺構実測原図、調査担当者への聞き取りなどを通じて、発掘調査の詳細および成果の把握に努めた。上記の資料すべてをデジタルデータ化し、遺構実測原図のトレース図を作成するなどして、遺構報告原稿を作成した。

遺物はほぼすべてが埴輪の破片であり、大型の木箱にして32箱分に及んだ。それらの台帳作成から始め、接合検討、報告資料の抽出、実測、三次元計測、写真撮影などを実施し、遺物報告原稿を作成した。

それらの報告原稿と本研究参加者に執筆を依頼した考察原稿をとりまとめ、5月中旬に印刷会社に入稿し、5月末ないし6月初頭に研究成果報告書を刊行する予定である。

今後の見通し： 報告者は、今年度の科学研究費補助金（基盤研究（B））に応募し、幸いにも採択された。そこでも引き続いて妙見山古墳を取り上げる予定である。妙見山古墳では1920・1947・1949年にも発掘調査が実施されており、その際に出土した副葬品が京都大学総合博物館に所蔵されている。それらについても現代的な水準で調査研究をおこない、本研究の成果と合わせ、妙見山古墳の総合的な評価を目指す。その上で、元稲荷古墳・寺戸大塚古墳の発掘調査資料整理作業、「首長墓系譜」の検討へとつなげてゆきたい。